

平成23年度
入学試験問題

国 語

2月2日 午前

受験番号	氏 名

中村中学校

□ 一 次の(1)～(10)の——線のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- (1) センコクは失礼しました。
- (2) 学生タイショウの調査を行う。
- (3) 二人の実力にはカクダンの差がある。
- (4) キリツ正しい生活をする。
- (5) 先生からユウエキな話を聞く。
- (6) あの人には芸術家のソシツがある。
- (7) 友だちにチュウコクされて反省する。
- (8) 手アツいもてなしを受けた。
- (9) 雪国のクラしにも慣れてきた。
- (10) お皿を落としてワってしまった。

二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

* 字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

日本人はいま、若い人を中心に、食べものの価値判断をお金ですることが多く、安いものはいいことだとばかりにそれを買って食べる傾向がひじょうに多い、と私は見えています。これは正しいことなのでしょうか。

ここではまず、サケの話をしてみましょう。

いま世界でいちばん安心・安全でおいしいサケはこのものではないか。それは、北海道や東北地方、新潟県、茨城県などの川にさかのぼるサケが世界一安心でおいしいといわれています。日本では、人工ふ化した稚魚を川に放流し、それらがベーリング海で育ち、三〇五年したものが生まれ故郷の湾にもどってきて、川へのぼっていつて産卵するわけです。ベーリング海で大きくなったものが、生まれ故郷の日本の川に遡上してきますから、稚魚を放流したものといっても、ほとんど自然条件で育ったサケなのです。

a 放流した稚魚のうちで、大きくなって帰ってくるのは1%にも達しないといわれています。

さらに、日本のサケ漁師は「これから川に産卵に行くサケだから、真水を吸っちゃうまくねえんだ。その前に獲らねば」といって、わ

ざわざ河口付近や前浜に出てサケを獲ります。だから、日本のサケは世界一おいしいのです。

b 安心・安全だといわれています。

ところがいま、これを日本人はあまり食べなくなったのです。そのため、根室や釧路、その他のサケ業者がいま、どんどん廃業しています。

c、日本人はなぜ、こんなに安心・安全でおいしいサケを食べなくなったのでしょうか。それは、安価な養殖サケが大量に外国から入ってきているからなのです。

いちばん多いのがチリの養殖サケです。みなさんがサケの弁当やサケのおにぎりを買ったら、その表示を見てください。「鮭(チリ)」と書いてあるのがとても多いのに気づくはずです。チリでもノルウェーでも、サケを生簀で飼っているところが多いのです。

d 養殖サケです。日本のように小さな稚魚を海に放すのではなく、生簀

の中で餌を与えながら大きくしています。こうすれば獲りにいく手間がかからないし、2 帰帰率一〇〇%ですから、ひじょうに安いサケを育てることができるのです。

しかし、3 リスクもあります。それは、生簀の中で飼っているのだとえば一匹が病気にかかれば、伝染して全滅する可能性があります。そのため、餌や水に大量の抗生物質を入れたりして発病を防ぐ必要があるのです。前にもお話しましたが、いまから五年くら

い前、輸入されてきた外国産の養殖サケに抗生物質が大量に入っているということがわかり、一度、輸入をストップしたことがありますが、それがまた入ってきているのですが、いまは大丈夫なのでしようか。

とにかく、そういうものを日本人は「安い、安い」と言っておうのです。毎日サケを食べるのなら、安いほうがいいでしょうが、毎日塩ザケを食べていたら、血圧が上がってしまいますね。

そうではなくて、たまに食べるのですから、一切れ二〇円ぐらい高くても、日本の安心・安全でおいしいサケを食べるべきだと私は思います。でも、現実には日本人がそれを食べていないものだから、北海道の大きな冷凍庫がサケでいっぱいになりました。売れないのに何百トンもサケをもちかかっていると、毎月何十万円、何百万円という冷凍庫代がかかります。それによってもちこたえられないサケ業者が倒産することになります。

この状況を見て、へあゝの船がいま根室、釧路あたりへ来て、へいゝ人が食べない世界一安心・安全でおいしいサケを、売れなくて余っているのだから、格安で買っていきます。そして中国では、それを原料にしておいしいサケ缶をつくり、「メイド・イン・チャイナの世界一おいしいサケ缶」だといって、ヨーロッパやへうゝに輸出したりしているということです。

つまり、こんなことを日本人はしているのです。安心・安全でおいしい、日本人のためのサケは、日本人が食べないので中国にいてしまいます。逆に日本人は、安全面やおいしさの点で大丈夫かなというサケを、安いという理由だけで買って食べているのです。日本人はこういう情けない民族になったということを実感としてとらえて、自分たちとしてどうすればいいのかを考えなくてはいけません。

安いことはいいことかもしれませんが、それでは食べものを選ぶほんとうの基準が何なのかという判断力を失ってしまう危険があるのです。これはサケだけの問題ではなく、ほかのいろいろな食べものでも、その判断を失えば取り返しのつかないことがおきる可能性があるからです。とにかく、食べもの選択基準がいまの日本人はおかしくなっています。大人だけではなく、若い人ほど「安ければいい」という食べものに対する価値観をもっているように、私には見えます。それは食べものについてだけにとどまりません。食べるということは、生きていくための多くの選択基準をしっかりと身につけておくための原点でもあるからです。みなさんも、ぜひこのあたりを考えてほしいものです。

(小泉武夫『いのちをはぐくむ農と食』)

問一 —— 線①とありますが、日本のサケが「世界一おいしい」のはなぜですか。その答えとなるように次の文の空らんをうめなさい。

I サケを II 獲るから

問二 —— 線1「遡上」、2「回帰」のここでの意味と同じ意味のわかりやすい表現を —— 線2より前の文中から探し、ぬき出して答えなさい。ただし1は五字、2は十一字でぬき出すこと。

問三 に入る語を次から選び、記号で答えなさい。

ア、そして イ、では ウ、つまり エ、しかし

問四 —— 線②「産卵」と同じ組み立ての熟語は~~~~線A「安価」、B「外国」、C「伝染」、D「発病」のうちどれですか。記号で答えなさい。

問五 —— 線③の「リスク」とは、「危険」という意味ですが、この場合何が危険なのでしょう。i「サケ業者にとってのリスク」とii「消費者にとってのリスク」に分けてそれぞれ三十五字以内で説明しなさい。

問六 —— 線④の表現上の特徴の説明として最もふさわしいのは次のア～エのうちどれですか、記号で答えなさい。

ア、医学的な分野の話に結びつけて、学問的な価値を上げている。
イ、極端なたとえを用いて、ややユーモラスな表現にしている。
ウ、ここだけ文体をくだけた形にして、読者に強い印象を与えている。
エ、ややむずかしいが、筆者の豊かな知識があふれた表現になっている。

問七 へ あ ～ ～ へ う ～ へ に入る国名の組み合わせとして正しいものを次から選び記号で答えなさい。

ア、あ 中国 い 日本 う アメリカ
イ、あ 中国 い アメリカ う 日本
ウ、あ アメリカ い 日本 う 中国
エ、あ 日本 い 中国 う アメリカ

問八 —— 線⑤ 「こんなこと」の「こんな」にふくまれる意味と

して適当なものを、次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア、おかしな イ、ふさわしい ウ、あたりまえの

エ、ばかな オ、もったいない

問九 —— 線⑥とありますが、食べものの判断を失うことがなぜ

それほど重大なことなのか。四十字以内で説明しなさい。

〔三〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

* 字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

いなかの小学校の生徒が学校へ行こうと思って野を歩いていると、一ぴきのきつねが遠くにいるのを見た。そのきつねがなにかしきりと前足で顔をこすっているかと思うと、なにか草の葉を頭にのっけて、ちゅうがえりのようなことをした。すると一人の百姓ひやくしやうにばねしてさかさまにきつねをばかしてやろうと思った。それできつねがくると、

「こんにちは」と生徒のほうから声かけた。

「こんにちは」とそのきつねも答えた。

うまくばけたなど生徒は思った。そして行きすぎてからふりかえって見ると百姓にばけたきつねは平気な顔して A 町のほうへ行くらしかった。

生徒はそこで心配になった。自分の家にでもでかけていってにわとりでもさらっていきはしないか、おかあさんでもだましてあぶない目にあわせはしないか。そんなことが B 気になりだした。それで学校に行くのをやめて、きつねのあとをそとつけていった。きつねは気がつかないように歩いていった。生徒はきつねが自分

の家のほうに行かずに町のほうへまがっていったのを見た。それで安心はしたが、きつねが C どういうふう^①に人をばかすか見^②たくな^③った。それで学校へ行くのを D やめてあとをついてい^④った。

きつねは町をどんどん歩いていった。そしていきあう人にあいさつした。

「あれはきつねですよ。うまくばけましたね」

生徒はあう人ごと^①にいった。しかしみんなあまりおどろくようにも見えなかった。そんなことはどうでもいい、自分にはしな^②ければならないことがあると^③いうような顔をしていた。生徒ははりあいが^④ないように思ったが、自分がきつねの正体を見やぶったことがうれしく^⑤ってしかたがなかった。そしてじまんがしたく^⑥ってしかたがなかった。

あのきつねをきつねだとほんとうに知っているのは自分だけだ。きつねにだまされる人^①はあるが、自分のようにきつねをだました人^②はあるまい。自分はどうしてこうりこうなのだろうと思^③った。

向こうからかれの友だちがきた。きつねとなにか話してやってきた。

「いま、君の話していたのはきつねだよ」

「 1 」

「 2 」

「 3 」

「 4 」

「 5 」

「ぼくは学校へ行くのはやめたのだ。あのきつねのやつを見はってわるいことができないようにしてやらなければならないから」

「そうか、それではし^③っけいするよ」

「君もひとついっしょにつけていかないか、おもしろいよ、きつと」

「君、それよりきつねにばかされないようにしたまえ」

「だいじょうぶだよ、それならしっけい、それならみんなによろしくい^④ってくれたまえ。あしたおもしろい話をしてやるから」

かれは友だちにわかれてから、きつねを見う^⑤しなう^⑥とたいへんだと思^⑦ってかけた。きつねは平気で歩いていった。そして鳥居^aの前^⑧に立ちどまって、なにか見ていたが、そのまま歩いていった。

「にわとりを、とろうと思^⑨ったのだな。とらしてやるものか。おれがつ^⑩いている」

きつねはなにか考えているらしかったが、かし屋にはいった。それで生徒はあわててかし屋にはいった。きつねはすまして木の葉をだしてかしを買っていた。

「それは木の葉だよ。きつねいいかげんにしないでしようちしないぞ」^⑤

きつねは聞こえないまねをしてでかけていった。

「いまのはきつねですか」

「そうさ、君すっかりしたまえ、これはお金じゃなくなって木の葉だぜ」

「そうですか、わたくしには金としか思えません」

たたいてみて、

「やっぱり金ですよ。音がします」

「ばかだね、君は」

生徒はふきだした。しかしきつねのことが気になるので店をとびだした。そして一人で笑った。世間のやつはばかだな。きつねのやつ、おれを見たらびっくりしてにげていった。

きつねはまたどうふ屋によって油あげを買っていた。

「まだ君はだまそうとしているのだね」

生徒はなれなれしくわざといった。

きつねはだまってまた木の葉をだした。

「君、これは木の葉だぜ」

かれはそれをうばって、なげすてた。

「なにをするのです。もったいない」

どうふ屋の主人はあわててそれをひろった。そのうちにきつねは油あげをもってでていった。

「いまのはきつねだぜ」

「そんなことがあるものですか」

かれは口論bしたく思ったが、それよりきつねのほうが気になった。それでそこをとびだした。

きつねはどんどん歩いていった。かれもまげずに歩いていった。

しばらく行くときつねは向こうからくるかわいい女の子となにか

話しだした。そしてつれだつて歩きだした。

生徒はもうがまんができないと思った。それで、「このきつねめ、

なにをするのだ」といってそこに落ちていた棒をもっておいかけた。

きつねは女の子と二人であわててにげた。

「にがすものか。それはきつねですよ。きつねですよ。だまされてはいけません」

といった。しかし女の子はきつねに手をひかれてかけていった。

足がはやいので、かれはむちゅうにかけたが、なかなかおいつけなかった。そのうちきつねは女の子をつきはなしてにげていった。

かれは女の子のところへ行つたが、女の子は見えなかった。おかしいと思って、見まわしたが、だれも見えなかった。そればかりではなかった。かれは山の中に一人で立っていた。このとき、山の中から声がした。

※「遠いところをごくろうさん。あなたは木のかぶとしきりと話をしていますね。あなたの友だちだと思ったのはかかしてしたよ。

あなたのかかすと話しているふうはずいぶん見ものでした。あまり

ひとの世話をやかずに、自分の世話をやきなさい。あなたよりは
もっとかしこいものはいくらでもいます。あんまり得意にならずに、
自分ほどばかなものはないと思って勉強してりっぱな人間におなり
なさい。悪者にあまりかかわると、あなたのほうが損をしますよ。
あなたをだますくらいは、わけないのですからね。さよなら」

生徒は家に帰るまでにはずいぶんほねがおれた。いまにも泣きそ
うな顔をしてやっと家に帰った。そしてきつねにだまされたことは
だれにも話さなかった。しかし、そのちは悪者にはなるたけ関係
しないようにして、自分をかしくくするようにほねをおった。

(武者小路実篤『小学生ときつね』)

問一 A 〽 D に入る語を次からそれぞれ選び記号で

答えなさい。

ア、しきりと

イ、いよいよ

ウ、いったい

エ、どんだん

問二 —— 線①とあるが、なぜ「はりあいがないように思った」

のですか。五十字以内で説明しなさい。

問三 —— 線②を言いかえると次のうちどれがよいですか。記号

で答えなさい。

ア、あるにちがいない

イ、あるかもしれない

ウ、ないだろう

エ、ない

問四 「1」〽「5」に入る会話文を次からそれぞれ選び、

記号で答えなさい。

ア、「見えない。それより君はいったいどこへ行くのだ。もう

おそいよ」

イ、「だって人間じゃないか」

ウ、「ぼくはちゃんとばけるところをみたのだ」

エ、「しっぽが君には見えないのか」

オ、「そんなことがあるものか」

問五 ——— 線③「しっけい」、⑤「いいかげん」とほぼ同じ意味

で使われているものをそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

「しっけい」

ア、あいさつもせずしっけいなやつだ。

イ、しっけいしてひぎをくずす。

ウ、みかんを一つしっけいする。

エ、駅に着いたらしっけいするよ。

「いいかげん」

ア、もういいかげん待たされた。

イ、いいかげんなことを言うな。

ウ、冗談もいいかげんにしなさい。

エ、あいつはいいかげんなやつだ。

問六 ——— 線④とありますが、この小学生の言う「おもしろい話」

とはどのような話だと考えられますか。次からふさわしくな
いもの一つを選び、記号で答えなさい。

ア、自分がきつねにだまされた話。

イ、世間の人がきつねにだまされる話。

ウ、きつねの正体をあばいてほめられる話。

エ、きつねのばけ方についての話。

問七 ——— 線 a 「鳥居」、b 「口論」の読みを答えなさい。

問八 ※の会話文について述べた次の文のうち、最も適当なものを

選び、記号で答えなさい。

ア、この会話によって、小学生はきつねから救われ、さらに深

い山へと迷いこむことからのがれられた。

イ、この会話の話し手はきつねだと思われるが、山の神など人

の力のおよばない存在とも考えられる。

ウ、この会話は親や先生など周囲の大人たちの注意が実際の声

となって小学生の胸の内にひびいたものである。

エ、この会話の話し手は女の子に姿を変え、きつねとともに得

意になっている小学生をからかっている。

問九 ——— 線⑥とありますが、得意になっている様子が最もよく

表れている一文をぬき出して答えなさい。

問十 ——— 線⑦とありますが、それはなぜですか。四十五字以内

で説明しなさい。